

# 芹沢文学愛読者短信

2024年  
7月15日  
芹沢文学  
愛読者  
の会

## 『芹沢文学愛読者の集い』 報告

芹沢文学愛読者の集いが、6月9日(日)に、いつもの名古屋駅前の会場『ウインクあいち』でやっと実現しました。

毎年1月に、新年会として実施してきた、この集い、コロナで4年間中断しました。

過去を振り返りながら歳月を数えてみると、芹沢文学愛読者の会が誕生して、今年でちょうど50年目を迎えたことに気づきました。

そこで出席者の皆様と芹沢文学愛読者の会、創立50周年記念としてお祝いいたしました。

集いに出席された方からお便りが届きました。ご紹介いたします。ただし、紙面の都合で全員ご紹介できませんこと、お許し願います。

朝食後、昨日の集いのあれこれを語りながら、紅白饅頭に舌鼓を打ちました。お仲間のお宅でも同じような光景が繰り広げられているのでは?と想像しました。

Aさん

6月9日の集い、まごころのあるおもてなし、久しぶりに楽しくすごさせていただきました。名古屋の皆様は、芹沢文学を生活に活かしておられると言う印象です。親しく交流できてとても幸福です。

Bさん

とても楽しい集いとなり感謝しています。ありがとうございました。写真も皆さんきれいに撮れていますね。創立50周年本当にすごいです。

Cさん

朝、家を出る時は、雨模様でしたが、やはり芹沢晴れになりました。この時季に催されたのも良かったように思います。明るいうちに帰宅できました。

Dさん

心が萎えてなかなか前向きになれずにいきましたが、久しぶりに芹沢文学の皆様にお会いでき、だんだん元気に前向きな気分になってきました。本日より仕切り直し頑張っつていきたいと思えます。

Eさん

集いの会の、楽しかった余韻が、まだ残っているところに全員の記念写真が届きました。皆様のお顔をゆっくりと拝見しました。

Fさん

久しぶりでしたので、なぜか姉妹兄弟親戚一同が集まったような気がしています。

Gさん

連載中の自伝抄「捨て犬か雑草のように」は紙面の都合でお休みです。

「芹沢文学愛読者の集い」に参加しました

六月九日の名古屋「芹沢文学愛読者の集い」は天候にも恵まれ、正に「芹沢日和」の中42名の参加者による貴重なスピーチを、平石様の司会進行により流れるように進み、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。

安井様ご夫婦による読書会発足のお話はスライドも交え、お人柄が滲む温かいもので、東京出張の際に電話帳で芹沢先生のご住所を調べるとすぐ近くに居たこと、少し門扉が開いていたその隙間に吸い寄せられるよう入って行く事でご交際が深まっていったというお話は、運命とそれを引き寄せる少しの勇氣、意思の大切さを

教えていただきました。また、五十年という長きに渡り存続させることが出来たのは、皆様のご尽力と安井様の大樹のようなご人徳の賜物、癒しと温かく貴重な歴史だった事は容易に想像できません。

参加者の方々もご自身の芹沢文学との出会いや人生、文学に影響を受けた行い出来事や思いを語られました。体調の優れない中、ご家族に付き添っていただいていたまで参加された方、この会だけは参加したかったと遠方よりいらした方など愛好を超えた恩恵や感謝、祈りの思いを感じられました。

先生のお言葉を教訓に努力してご夫婦円満に過ごされたお話、

今は亡き後藤様を偲んだお話、平石様のご尽力されたツアーの話、遠藤周作の神と芹沢文学の神その読者との話、ボランティアでスリランカの学校建設に従事尽力された話、

野の花と風と対話したお話、そして前田様の読書会のお話など多岐にわたり様々な人生訓をお聞かせいただいた貴重なお時間でした。

その後の二次会も和気あいあいと笑いの絶えない時でした。名古屋の芹沢文学会の温かさが凝縮した有意義な会でした。

本文は、東京の芹沢文学愛好会通信534号に掲載されたものです。

愛好会の許可を頂き掲載いたしました。